

京 都 大 学

医療技術短期大学部紀要

第23号

2003年

目 次

総 説

日隈ふみ子：助産学教育の行方 1

原 著

菅 佐和子：A report on a self-exploration through sandplay-drama method
-On aggression and mother-daughter relationship
in a modern Japanese woman- 13

奥津 文子, 片山 由美, 赤澤 千春：効果的な臨地実習指導方法の検討 II
-学生の自己効力感と実習目標達成度との関連からの一考察- 23

片山 由美, 奥津 文子：臨地実習目標達成度評価と実習満足度との関連
-学生の満足度を組み入れた臨地実習目標達成度評価の一考察- 33

松田 幸子, 荻田美穂子, 吉田しおり, 安田 愛, 松本 紀子,
奥津 文子：病棟の特殊性に応じた「転倒転落・セサメント・スコアシート」
「転倒・受傷予防対策プラン」の有効性の検討 43

寺口佐與子, 谷田 恵子：嗜好の異なる音楽が副交感神経活動に及ぼす影響 51

笹山 哲, 後藤 俊幸：インターネットを利用した病原細菌
データベースシステムの構築 61

竹村 俊一, 小野 剛, 成田 知弘, 高橋 幸治, 青木 千津, 成田 邦子,
市橋 則明, 久保田 競：経頭蓋磁気刺激で誘発された第 I 指の運動の変化
-運動の調子が規則的であることと不規則的であることの影響- 71

白須 章子, 玉木 彰, 辻田 純一, 清記：肢位の変化が咳嗽能力に
与える影響と咳嗽介助手技の効果について 79

小野 泉, 小西 紀一：上肢装具製作方法の検討 -製作困難行程の解析- 87

山根 寛, 腰原 菊恵, 小西 紀一, 種村 留美, 赤松 智子, 加藤 寿宏,
小野 泉, 田原 明夫：作業療法の教育・研究における臨床の場
に関する現状と課題 93

業 績 集 105

抄 録 123

投稿規定 129

編集後記

投 稿 規 定 (平成5年6月16日改定)

投 稿：投稿論文は、総説、原著、短報などとし、本短期大学部教職員（元教職員を含む）が著者、または共著者であるものに限る。

論文の受付：原稿（表紙、本文、図、表など）はコピー2部を添え（計3部）、当該年度の6月30日までに、編集委員会に届ける。編集委員会に届けられた日をもって受付日とする。編集委員会は、割付けおよび全体としての統一などをはかるために、著者に対し表現方法その他の変更、削除などを求めることがある。

原稿の書き方：原稿は次の規定に従って書かれたものであること。

1. 表紙（原稿第一枚目）の前半には表題、著者名、所属およびその所在地、ランニング・タイトルをこの順に従って書く。なお外国語原稿の場合は、上記各項の日本語を併記する。

後半には原稿の枚数、図、表の数、別刷希望部数を書く。筆者の所属の表記は、筆頭者は無記号、共著者の所属が異なる場合はその著者名の右肩およびその所属名の冒頭に^{*}、^{**}……印をつける。

2. 原稿には、英文の表題、著者名、所属、抄録（20行、または200 words程度）およびKey words（8語以内）をつける。著者名の姓は、大文字で表記する。

3. 欧文原稿及び英文抄録は、必ずダブル・スペースでタイプする。また、当該国人が読んで、正確、明快に理解できるものでなければならない。

和文原稿は原則として、常用漢字、ひらがな、現代かなづかいを用い、B5版の400字詰横書き（論文の内容上とくに必要な場合は縦書き）原稿用紙に清書する。ワープロ使用の場合も、400字詰とする。外国語固有名詞（人名など）は原語を、一般に日本語化された外国語は、片かなを用いる。

度量衡はCGS単位とする。

4. 論文の項目の区分は、原則として下記の例に従う。

大項目……無記号で下線をつけ、前を一行あける。原著論文の緒言 (Introduction)、材料 (Materials)、方法 (Methods)、結果 (Results)、考察 (Discussion) などが相当する。

小項目……以下の順で使用する。

1., 2.……行の第1字目に記す。

1), 2)……行の第2字目に記す。

5. 図 (Figure) および表 (Table) にはそれぞれ別の通し番号をつける。図版 (Plate) や写真 (原則として白黒) は、図として取り扱う。

図はなるべく原寸大とし、明瞭でそのまま印刷できるものとする。図版は(14×20 cm)以内にまとめる。図は台紙(20×26 cm以下)に貼り、さらに薄紙のカバーをつける。カバーには筆頭者名、ランニング・タイトル、図の通し番号を記入する。

図・表の説明文は、まとめて原稿の末尾につけ、原稿本文中の欄外余白部に、図、表の挿入位置を朱記し明示する。

6. 謝辞は、本文の末尾に入れる。

7. 文献は、下記の要領に従い、引用順に配列し、本文の末尾に一括記載する。外国語文献は必ずタイプする。

本文中の文献引用箇所には著者名や引用文などの右肩に、その文献番号を¹⁾、^{1, 3, 6)}、^{2~5)}のように記す。

雑誌の場合

著者名（6名以下の場合には全著者名、7名以上の場合には最初の3名を記し、“他”または“et al”をつける）、表題、掲載誌名、発行年（西暦）、巻数（必要であれば号数）、頁数（始-終）の順に記す。雑誌略名は、日本医学誌略年表（日本医学図書館

協会編) および Index Medicus に従う。

〈例〉

- 1) Sakaguti K, Jameson EW : Two new fleas from Japan. J Med Zool 1959 ; 10 : 156-162
- 2) 菅沼美奈子, 内山和美, 三井政子 : 性周期記録表の試み. 母性衛生 1978 ; 19 : 76-82

単行本の場合

著者名(雑誌の場合と同様), 表題, 編者名, 署名, 版数, 発行地, 発行所, 発行年(西暦), 引用頁(始終)または(1-終頁)の順に記す。なお著者と編者が同一の場合には, 著者名, 書名の順とする。

〈例〉

- 1) Wintrobe MM : Clinical Hematology : The erythrocyte. 7th ed. Philadelphia : Lea and Febiger, 1974 : 80-220
- 2) Schwartzs TW, Tager HS : Biosynthesis of pancreatic polypeptide. In : Bloom SR, Polak JM, eds. Gut Hormones. 2nd ed. Edinburgh, London, Melbourne, New York : Churchill Livingstone, 1981 : 202-205
- 3) 富田 仁 : 救急時検査の手技と解釈, アミラーゼ. 富田 仁, 熊谷直家, 内田耕太郎編, 検査診断マニュアル, 第1版. 東京 : メヂカルフレンド社, 1978 : 96-99
- 4) 城戸幡太郎 : 文化心理学の探求. 東京 : 国土社, 1970 : 1-390
- 5) Pedretti LW : 身体障害の作業療法(小川恵子, 山口 昇, 青木真由美訳). 東

京 : 協同医書出版社, 1985 : 103-115

同じ文献を再引用する場合

〈例〉

- 1) Eliot TS : The Complete Poems and Plays. London : Faber & Faber, 1969 : 25
- 2) Yeats WB : A Vision. London : Macmillan, 1937 : 13-17
- 3) Ibid., 18
- 4) Op. cit., The Complete Poems and Plays, 78
- 5) 砂原茂一 : リハビリテーション. 東京 : 岩波書店, 1980 : 20-28
- 6) 中野 昇 : 腰痛の臨床. 東京 : 南江堂, 1976 : 56-62
- 7) 同上, 31-35
- 8) 前掲書, リハビリテーション, 45-48

原稿の枚数 : 原著論文, 総説は原則として図, 表などを含め刷り上り10頁以内, 短報などは同じく4頁以内, 学会・研究会の抄録などは同じく半頁以内とする。なお, 本誌1頁は, 400字詰原稿用紙約4枚分に相当する。図は手札大(9×13cm)が原稿用紙約2枚分に相当する。

校正 : 著者による校正は, 再校までとし校正時における内容の変更や追加は認めない。

印刷費 : 原画の描画を外部に依頼するときや, カラー写真印刷を希望するときなどは, その経費を著者の負担とする。

別刷 : 印刷は50部を単位とし, 50部をこえる分の経費は原則として著者の負担とする。

編集後記

二十余年に亘って京都大学医療技術短期大学部の研究活動の相互理解のために活用されてまいりました本紀要は本号で一区切りをつけます。今回掲載されました11編の論文はいずれも現在の活発な学内研究活動をよく表しておりますし、本号が皆様のお手元に届く頃には京都大学医学部保健学科としてますます躍動的な研究が学内において繰り広げられているものと思われれます。来年度より一新されます本誌には「健康科学として先導的でgood directionの研究とはどのようなものか」ということを示唆する沢山の研究論文が掲載されるものと楽しみにしております。末筆になりましたが、本誌を支えていただきました多くの先生、関係者の皆様、本当にご苦労様でした。厚く御礼申し上げます。

2003年9月

紀要編集委員長	三	谷	章		
編集委員	大	塚	研	一	中
	赤	澤	千	春	笹
	伊	藤	洋	志	野
	玉	木	彰		田
	種	村	留	美	日
					隈
					ふ
					み
					子

京都大学医療技術短期大学部紀要 第23号

Annual Reports of College of Medical
Technology, Kyoto University No.23

平成15年12月26日印刷発行

印刷 嶋田総合印刷

京都市左京区叡電出町柳町1

発行 京都大学医療技術短期大学部

京都市左京区聖護院川原町53

ANNUAL REPORTS

OF

THE COLLEGE OF MEDICAL TECHNOLOGY,

KYOTO UNIVERSITY

No. 23

2003

CONTENTS

Reviews

Fumiko HINOKUMA : The future of midwifery education 1

Originals

- Sawako SUGA : A report on a self-exploration through sandplay-drama method -On aggression and mother-daughter relationship in a modern Japanese woman- 13
- Ayako OKUTSU, Yumi KATAYAMA, Chiharu AKAZAWA : Evaluation of effective clinical training instruction methods II -A discussion based on students' awareness of self-potential and instructors' assessment of the degree of goal achievement- 23
- Yumi KATAYAMA, Ayako OKUTSU : Association between assessment of the attainment degree of goals and the degree of student's satisfaction with clinical training 33
- Sachiko MATSUDA, Mihoko OGITA, Shiori YOSHIDA, Ai YASUDA, Noriko MATSUMOTO, Ayako OKUTSU : Evaluation of the usefulness of the "falling assessment score sheet" and "plan for the prevention of injury due to falling" modified to the uniqueness of our ward 43
- Sayoko TERAGUCHI, Keiko TANIDA : Effect of music on parasympathetic nervous activity 51
- Satoshi SASAYAMA, Toshiyuki GOTO : Construction of the pathogenic bacteria database system utilizing the Internet 61
- Toshikazu TAKEMURA, Takeshi ONO, Tomohiro NARITA, Koji TAKAHASHI, Chizu AOKI, Kuniko NARITA, Noriaki ICHIHASHI, Kisou KUBOTA : TMS-induced thumb movement was changed antagonistically by regular antagonistic movement but not by irregular antagonistic movement 71
- Akiko SHIRASU, Akira TAMAKI, Junzo TSUJITA, Seiki HORI : Influence of body posture on cough ability and effect of manual assisted coughing technique on cough ability 79
- Izumi ONO, Norikazu KONISHI : Study of manufacturing method for upper limb orthosis -Analysis of difficulty for fabrication stage- 87
- Hiroshi YAMANE, Kikue KOSHIHARA, Norikazu KONISHI, Rumi TANEMURA, Tomoko AKAMATU, Toshihiro KATO, Izumi ONO, Akio TAHARA : Current state and problem concerning clinical place in education and research of occupational therapy 93

Bibliography 105

Abstracts123

Instructions to Authors129

Editorial Notes

Ann. Rep. Coll. Med. Tech., Kyoto Univ.

ISSN 0286-7850
